



INTERVIEW

今後の新興感染症も見据えて 臨床や予防、人材育成に携わる

統合臨床感染症学分野
教授 具 芳明

各診療科で発生する感染症を
スピーディに診断・治療

2021年10月に本院が新設し

た感染症内科で、科長を務めています。感染症専門のスタッフを揃えた当科では、各診療科でさまざまな感染症を発症した患者さんを迅速に診断し、各科の先生方と連携しながら治療にあたっています。

本院では先進医療を提供しているため、手術や免疫不全に伴う感染症など医療関連の感染症対策が不可欠です。これらを適切に診断し治療につなげることは、原疾患の治療成績に大きく影響します。当科では高次機能病院ならではの感染症対策に取組み、治療の一端を担っています。

教育や公衆衛生活動の
経験も活かして制御に貢献

私が感染症に興味を持ったのは、研修医時代に市中病院でHIV感染症の患者さんを診察し、感染症対策がいかに重要かを痛感したのがきっかけでした。また、臨床現場で経験を積む中で院内感染に対処

する機会もあり、アウトブレイクにも対応できるスペシャリストになり、患者さんにご安心いただける医療環境を維持していきたいと考えています。

その思いから国立感染症研究所実地疫学専門家養成コースで公衆衛生分野の知識を学び、自治体などの方々と協働する機会に恵まれました。その後は国立国際医療研究センター病院で、AMR対策アクションプランに基づいて、医療従事者への研修や、一般向けの啓発資料作成などに取組みました。

医療従事者への教育に携わってきた流れから、現在は本学の大学院医歯学総合研究科に新設された統合臨床感染症学分野で、感染症に強い人材の育成に務めています。また、東京iCDCの感染制御チームにも参画し、教育活動や公衆衛生対策にあたっています。COVID-19のように大規模な新興感染症に対し、よりスピーディに感染拡大の芽を摘み、社会へのダメージを最小限に抑えられるよう、臨床や教育、啓発活動などさまざまな立場から感染症に関わってきた経験を活かして貢献していきたいと思っています。